

平成 26 年度 上越市外国語活動部 活動報告

部長 東條 善夫

1 研究主題

「素地」から「基礎」へとつなぐ「バトン」を重視した小学校外国語活動及び中学校英語教育の指導の工夫

2 研究の概要

当部会では、平成 23 年度より、小中学校の「円滑な接続」に向けた指導の在り方について、小中学校の教諭と市内に勤務する ALT が一堂に会して研修を重ねてきた。

今年度は、小中学校の学習内容の「接続」を重視した指導の工夫について、小学校外国語活動の教科化を軸にした授業づくりと教材開発を提案することを試みた。

3 研究の実際

(1) 公開授業

小学校 5 学年を対象に、小学校の教諭と ALT の二人で TT 指導を行った。小中の「接続」を重視した授業を構想する上で留意したことは **Listening** の指導の工夫である。本単元では “Hi, friends!” を使用せず, Nancy Carlson 著の “I LIKE ME!” のストーリーを聞いて概要を把握する活動を設定した。



次に、ALT が作成した “I LIKE ME!” のストーリーを聞いて、ALT のできることや好きなことを理解し、最後に “I LIKE ME!” という英語の絵本作りに取り組んだ。児童は単語や単文を聴くだけでなく、複数の情報を聴き取ることへの関心・意欲が芽生えてきている。そこで、このような児童の実態に応じ、無理のない形で、視覚的なものを手掛かりに聞くことの「緩やかな接続」を一つの単元の中で試みた。

(2) 中学校に円滑に接続する外国語活動の有効なリスニング教材づくりについて

① ねらい

- ・小学校での外国語活動を振り返るために、上越市内の児童の実態（小委員の中学校区での実態を基盤とする）に応じたリスニング教材を作成し、小中学校間の外国語指導を円滑につなぐツールとする。

② 方法

- ア 原則として中学校区の小委員がペアを組み、教材作成をする。
- イ 主として、小学校教員が作成し、中学校小委員がアドバイザーとなる。
- ウ 英語の音声部分は **Native speaker** の音声を吹き込む。

③ リスニング教材の活用

- ・上越市内の小中学校にリスニングのワークシートと音声をデータとして保存した CD を配布し、実際の授業場面で使用する。

4 成果と課題

今年度の提案授業は、これからの小中の「接続」を重視した指導を進めていく上で大変示唆に富む内容であった。時間的な制約、学校規模の違い、ALT の指導歴等、困難と思われる環境下であっても、まずは一歩踏み出して実践することが大切であることを参会者全員で確認した。出前授業や体験入学における授業スタイルを工夫する段階から、学習内容を「つなぐ」という段階へのステップアップが図られるべきである。その点から、教科化を意識した公開授業や外国語指導の基盤となるリスニング教材開発に着手したことは大きな前進である。

しかしながら、現段階では、現行の小学校外国語活動の趣旨を踏まえることと新たな英語教育の在り方を想定した指導とのバランスを調整していくことが課題である。